

中国の肥料輸出規制について

昨今中国は、自国の資源保護のため輸出関税を付加し、輸出制限品目を増やしてきている。中国財政部は、化学肥料の輸出抑制を中国国内での安定供給と価格の安定に加え、肥料の不足による農産物の価格上昇抑制などを狙った措置としている。

昨年12月に中国政府は、2012年1月より輸出関税率の変更を発表した。従来の特別関税(75%)のかかっていた尿素・カリ、化学肥料、りん安に加えて、塩安、重過リン酸石灰、鉍物リン酸肥料(ようりん)、10kg以下包装の肥料についても需要期

に適用し、ネットの輸出関税が大幅にアップすることとなった。主な内容は表1のとおり。ただし、尿素・りん安は不要期の低関税期間においても、FOB価格に応じた関税率変動システム(1)を採用している。

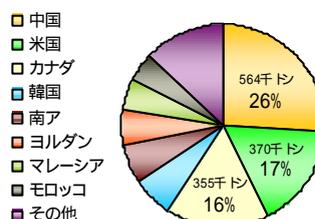
直近の財務省通関統計から中国品肥料及び肥料原料の輸入依存度をみると、中国品のシェアは大きくそのインパクトを報告する。2011年1-11月の通関統計上の肥料(31類)および燐鉍石の合計の輸入数量は約2175

(表1) 主な特別関税の対象アイテム(%:合計税率)

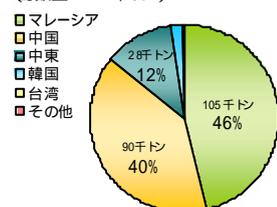
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
化学肥料(NPK)		110%											95%
	DAP・MAP	110%					7%					110%	
尿素		110%					7%					110%	
	塩安	82%					7%					82%	
重過リン酸石灰		82%					7%					82%	
	鉍物リン酸(ようりん)	82%					7%					82%	
10kg以下の肥料		82%					7%					82%	
	NP化成類	82%					7%					82%	

(1) 関税率変動システム : 関税率% = (1.07 - 基準価格 / 輸出価格) × 100 即ち、輸出価格が基準価格を上回った場合7%超の税率となる。

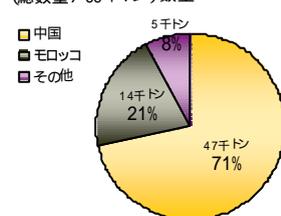
肥料 燐鉍石 2011年(1月-11月)
 (総数量2175千トン)



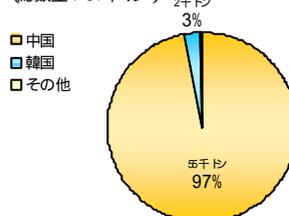
尿素 2011年(1月-11月)
 (総数量 / 227千トン)



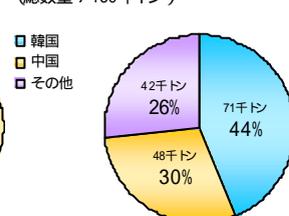
重過石/過石 2011年(1月-11月)
 (総数量 / 66千トン)数量



ようりん 2011年(1月-11月)
 (総数量 / 57千トン)

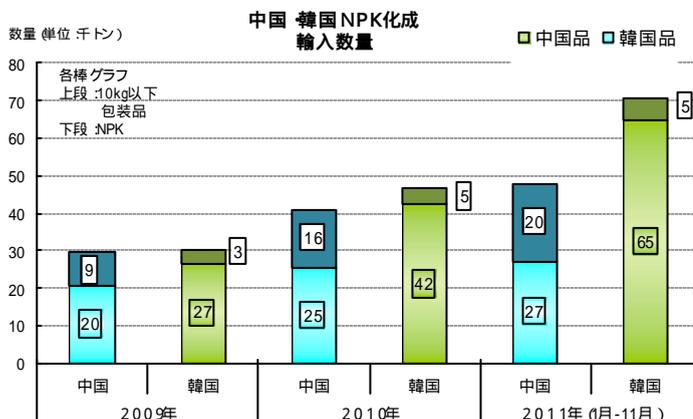


NPK 2011年(1月-11月)
 (総数量 / 160千トン)



千トン、内訳は中国564千トン(26%)、米国370千t(17%)、カナダ355千t(16%)、韓国140千t(6%)の順となっており、中国はトップで全体の26%を占めて、その依存度は一番。

各アイテム別の輸入シェアを上記円グラフで表示したが、中国品は何れも大きな割合を占めている。そして、NPK肥料の輸入推移をみると、輸入の74%は中国・韓国の化成肥料である。特に注目されるのは、中国品の10kg以下包装



の肥料である。2011年まで特別関税がかかっていなかったこともあり、中国品の中での割合は40%以上を占めおり、今回の関税化で今後の影響が注目される。

稲わらからエネルギーと化学品原料

原油より低コスト、石油代替に微生物パワーを活用！

石油や天然ガスの代わりに植物、農産物(非食部)からエタノール(エネルギー)や化学品原料を作る研究開発は、原油価格の高騰などを受けて2000年台に入り活発化し、事業化も相次いでいる。

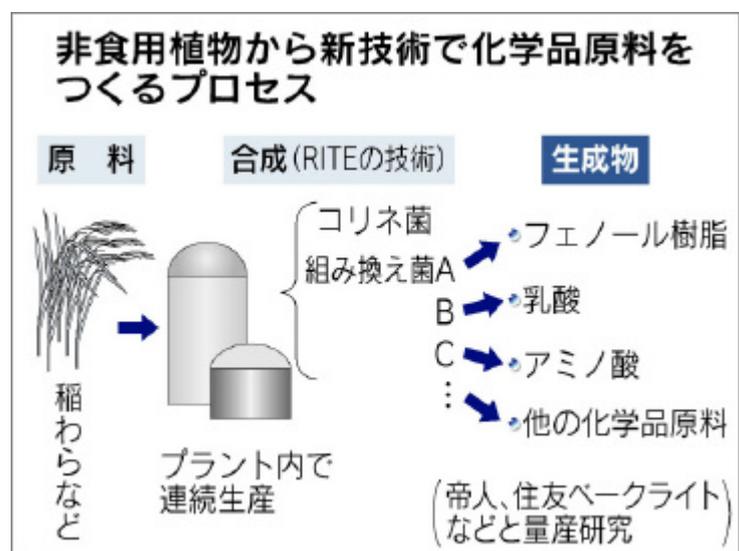
昨年、三菱重工は、稲わらなどのソフトセルロースから自動車燃料用のバイオエタノールを製造する技術実証事業で、日本自動車技術会の規格(JASO)に適合するエタノールを製造する一貫技術の確立に成功した。兵庫県下の農工・産学官連携で進めてきた「兵庫県ソフトセルロース利活用プロジェクト」での成果で、併せて、実機規模のエタノールプラントにおける燃料コストの試算などでも所期の目標を達成した。同社は今後、関係企業・機関などと協力しつつ、この成果をバイオリファイナリー技術の早期商用化に繋げていく計画だ。

また、財団法人・地球環境産業技術研究機構(RITE)は、東京大学の基金で運営するベンチャーキャピタル(VC)と共同で、稲わらなど非食用植物から電子部品用樹脂などの製造に乗り出す。RITEの湯川英明さんの研究グループが開発した「コリネ菌」の特性に遺伝子操作をすることで、いろいろな化学製品の

分野で応用される見通しがついたのだ。醤油や日本酒の醸造など通常の発酵では、微生物が細胞分裂して増殖しながら、タンパク質からうま味成分のアミノ酸を作ったり、糖からアルコールを作ったりする。増殖が止まれば反応も止まるのが常識だったが、コリネ菌は代謝系を切り替え、反応だけを進める。増殖の必要がないなら、温度管理など「生き物」としての世話がいらなくなる。生息密度を気にせず大量に菌を使って生産性をあげるなど連続生産が可能で低コストだ。新技術を使ってフェノール樹脂やアミノ酸などが製造できると、原油を原料とした場合に比べても今の原油価格が続けば十分に競争力を保てるという。

ソフトセルロースから糖を取り出す技術は、エタノール用途のみならず、バイオプラスチック製造などの基礎原料を作り出す技術としても注目されており、今回の成果は国内外から関心を集めることが期待される。日本農業の根幹である稲作が、食料生産だけでなく、エネルギーや化学品原料の「化学工場」として活用する道が開かれた。日本の稲作の用途を広げ減反ではなく増産に期待したい。

(日経新聞等)



(日経新聞)

東京は昨夜、珍しく雪が積りました。わずかな積雪でしたが、東京では電車やバスのダイヤが乱れ交通はやや混乱しました。歩道にも雪が積もり皆さん恐る恐る歩いていました。歩きなれない雪道は怖いのです。この冬は例年より雪が多いとの声も聞きます。皆様のお住まいの地域はいかがでしょう。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川・寺田

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp